



カーボンフットプリント（CFP） 算定結果報告書

2026年9月10日

1. 算定概要

報告年月日	2026年9月10日
算定対象期間	2026年販売中製品から取得可能なデータを使用
算定目的	自社製品のGHG排出量の把握・分析 なお、他社製品のCFPと比較されることを想定していない
発行社名	株式会社アステップ
対象製品	竹製歯ブラシ 型番：A151RE
	竹製スプーン 型番：A120
対象ライフサイクル	原料調達 / 生産 / 流通・販売 / 使用 / 廃棄・リサイクル

2. 算定製品詳細

対象製品	算定単位	内容物	算定対象の他構成要素
竹製歯ブラシ 型番：A151RE	1本	竹 6.1 g ナイロン 0.9 g	紙製個包装 梱包用PE袋 梱包用段ボール
竹製スプーン 型番：A120	1本	竹 3 g	紙製個包装 梱包用PE袋 梱包用段ボール

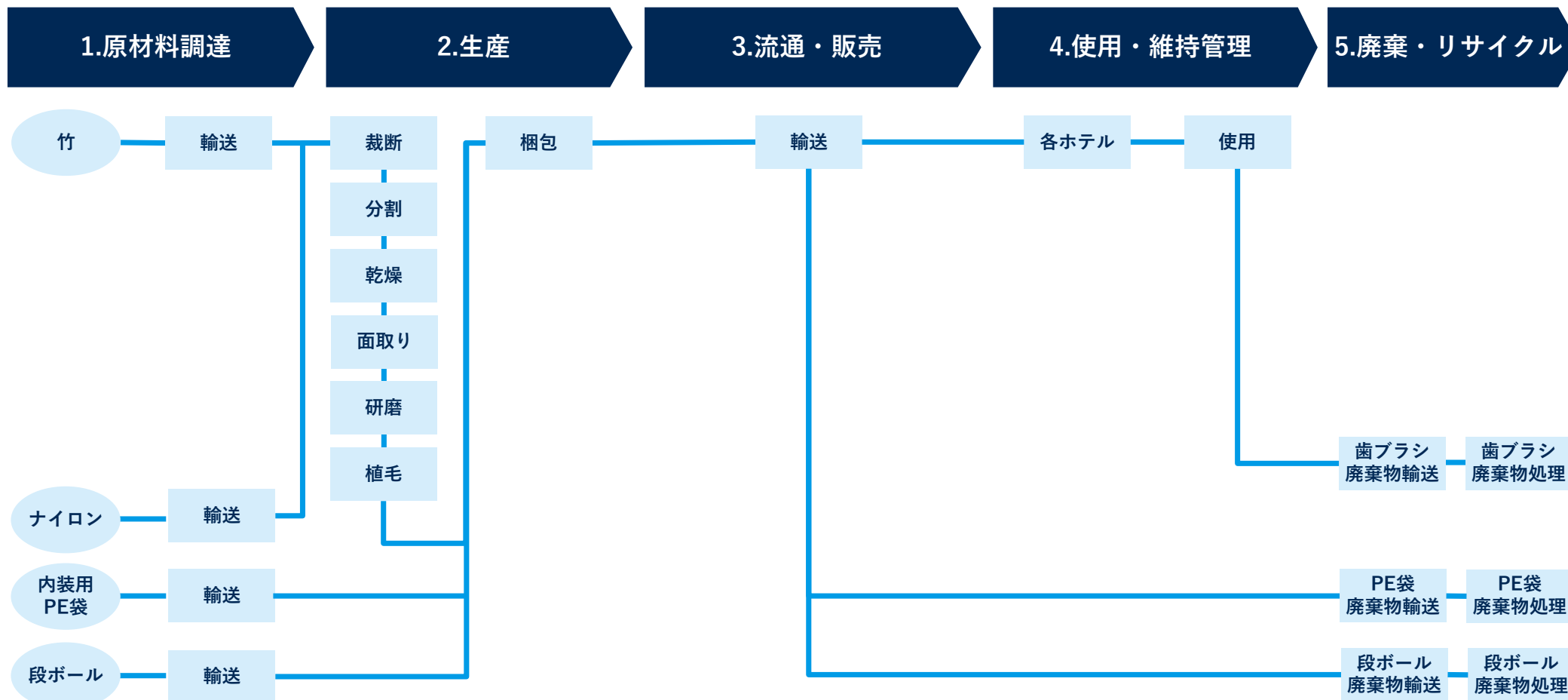
3. 算定対象プロセス ～竹製歯ブラシのライフサイクルフロー図～

竹製歯ブラシ 型番：A151RE

プロセス

：モノ

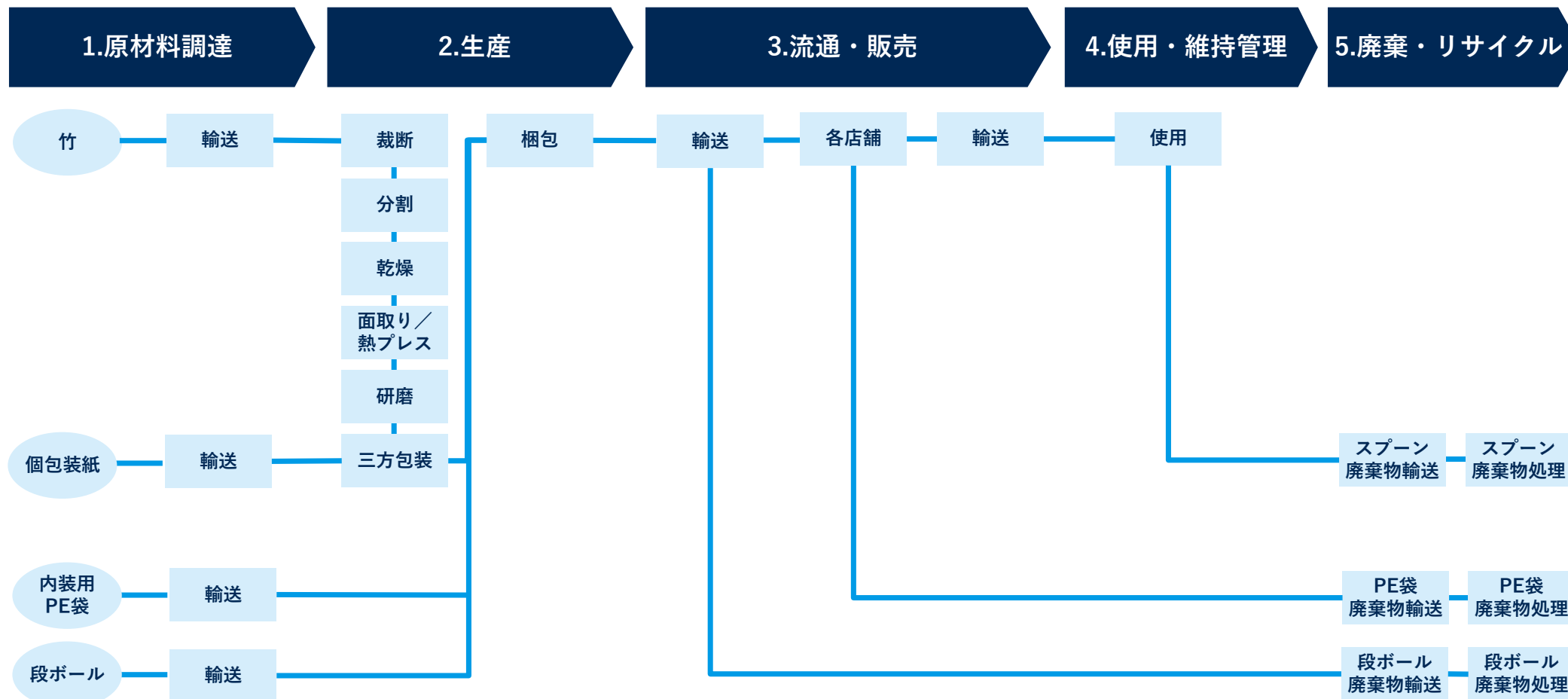
：工程



3. 算定対象プロセス ～竹製スプーンのライフサイクルフロー図～

竹製スプーン 型番：A120

プロセス ○：モノ □：工程



4. 算定情報

参照規格	カーボンフットプリントガイドライン（経済産業省、環境省）
算定データ	必要なデータ全てについて、取得可能なものは1次データの活用を原則とし、取得が困難な場合には、シナリオや2次データを使用
二次データベースの名称	• AIST-IDEA_Ver.4.0_IPCC • サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース_Ver.3.6
対象としたGHGの一覧	使用した排出係数のデータベースに含まれているGHGを対象とした。
選択した地球温暖化係数	CO2以外のGHGはIPCC報告書100年GWPを用いて換算し、CO2e（CO2相当量）として対象GHGの合計値を表示した。

4. 算定情報_その他注記すべき事項

シナリオ推計	1次データが取得できない活動量については、保守的な代表データ・係数の使用や、類似データ・公表データ等を用い、シナリオを組んで算定を実施した。
シナリオ適用範囲	・ 輸送プロセスにおける輸送距離、輸送車・コンテナ船サイズの選定 ・ 生産プロセスにおける電力使用量
カットオフ基準	1次データの取得が難しく合理的な算定が困難であること、かつ算定結果への寄与が軽微なプロセスについては、カットオフを適用した。
カットオフプロセス	・ 発電設備の建設（太陽光・水力・バイオマス発電） ・ 発電時の廃棄（灰処理等） ・ 貨物の積み下ろし ・ 保管流通段階の製品保管 ・ スプーン購入者の購入後の移動（車・電車移動等） ・ 個包装紙の印刷（インク）

5. CFP算定結果



竹歯ブラシ：23.09g CO₂e / 本

原材料・部品調達段階	12.89 gCOe
生産段階	0.02 gCOe
販売・流通段階	3.76 gCOe
使用・維持管理段階	0.00 gCOe
廃棄・リサイクル段階	6.41 gCOe



竹スプーン：3.90g CO₂e / 本

原材料・部品調達段階	1.41 gCOe
生産段階	0.01 gCOe
販売・流通段階	0.72 gCOe
使用・維持管理段階	0.00 gCOe
廃棄・リサイクル段階	1.76 gCOe

- スプーンに比べて歯ブラシの排出量が多い理由として、重量の違い、植毛したナイロン部分の調達・廃棄にかかる排出係数が多いことが挙げられる。
- 生産段階で使用する電力は再生可能エネルギー100%であり、電力使用に伴うGHG排出量は0 kg-CO₂eとして算定した。
- 原料である竹はバイオマス材料として、廃棄時の燃焼における排出量は0 kg-CO₂eとして算定した。

6. 算定における課題や不確実性について

算定に必要な活動量データのうち、一部のプロセスについては実測値や詳細情報の取得が困難であったため、カットオフもしくはシナリオを設定して算定を実施した。なお、算定結果を過小評価しないよう、可能な範囲で保守的な条件を採用している。

課題	今後の対応
シナリオプロセス	シナリオを設定したプロセスについては、今後サプライヤーを巻き込んだ実測値による再算定を検討する。
カットオフプロセス	カットオフを行ったプロセスについては、今後サプライヤーを巻き込んだデータ取得や、合理的な推計方法（シナリオ）の設定などから、算定対象に含めての再算定を検討する。
竹のCO ₂ 固定量の評価	竹のCO ₂ 固定量を把握・評価し、製品CFPの再算定を検討する。

